



ごあいさつ：大阪公立大学史紀要発刊にあたって

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2023-04-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山東, 功 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/00017944

ごあいさつ

—大阪公立大学史紀要発刊にあたって—

日本における「大学史」は、1907（明治40）年刊行の『慶應義塾五十年史』が、その嚆矢であるとされる。以後、多くの高等教育機関において大学史が編纂されていくことになるが、とりわけ戦前においては、膨大な史料を掲載したばかりの史料集型のものや、ある特定の史観の影響を受けた、プロパガンダに満ちた宣伝型のものまで存在した。そうした極端な例はさておき、大学史とは、いかなる立場によって記述がなされるべきかについては、常に問い続けられるべき課題として存在する。これは、大学史における、当該「大学」の位置とその意味を問うことにも通じる。そもそも、大学とは如何なる機関であるのか。また、如何なる機関であるべきなのか。このことへの応答が、大学史編纂事業の責務であるとも言える。

それだけに、大学史においては、大学という高等教育機関に対して、どのようなまなざしが向けられていたのかという、相対化の視点が重要な意味をもつ。大学の捉え方、すなわち、大学観の変遷史としての特性を大学史が兼備することにより、大学の意味について、より一層明らかにすることができるからである。このことから、大学史には、地域や社会、ひいては世界の中に存在する「大学」のあり方を再認識させる機能をもっている。これは、今日重視されるどころの、アカウントビリティ（説明報告責任）機能そのものに外ならない。大学史は、大学におけるあらゆる公的文書を網羅的に探索し、精査を重ねた上で編纂される歴史である以上、大学の研究、教育、社会貢献、経営といった全ての側面に対して、あたかも外部評価や監査にも似た対応が求められる。つまり、大学史編纂事業は、俯瞰的な視点からすれば、大学自己点検・評価作業そのものと言えるのである。また、大学の沿革を詳悉に記録保存することにより、現今の大学のあり方への確認ができるばかりでなく、未来への展望を描く基本的な資料への活用が期待できることは、それこそ言を俟たない。

2022（令和4）年4月の、公立大学法人大阪「大阪公立大学」発足にともない、これまでの大学史編纂事業についても、大阪公立大学・大学史資料室のものとして新たな歩みを進めることになった。本誌は、その新大学における新事業の根幹として位置づけられるものである。大阪公立大学が如何なる機関であり、また如何なる機関であるべきなのかを真摯に問う際の、いわば指標として本誌が活用されることを願うとともに、関係各位からの一層のご支援を、心よりお願い申し上げたい。

2023年2月

大阪公立大学 大学史資料室

室長 山 東 功